

## <功 績>

大橋美勝氏は、スポーツ社会学（特に生涯スポーツ論）及びスポーツの学習指導論を専門とし、永年にわたり研究活動に携わり、我が国のスポーツ医・科学の発展に貢献する研究活動を展開してきた。

とりわけ、その研究活動の一つとして、地域におけるスポーツの組織論や環境整備に関する実証的研究に取り組んできた。

昭和 50 年代初頭、文部省は、「日常生活におけるスポーツの推進に関する調査研究」をはじめとした各種実態調査において、スポーツクラブ加入者の多様なニーズに応えることができるスポーツクラブの存在や、多くの人々が活動を日常生活の根拠地である地域で実践することを希望しているという結果を受け、従来の学校や職場を基盤として形成された競技力向上を目指す選手中心のスポーツクラブの他に、地域に根ざしたスポーツクラブの育成を目的とした「スポーツクラブ育成推進事業」を展開し、地域スポーツクラブ育成の推進を図った。

その後、同省は市町村におけるスポーツクラブの育成とともに、市町村が実施する個々のクラブを有機的に結合させた連合組織の育成を促進するための補助事業として、地域のスポーツクラブの増加に伴うクラブ間の交流の促進や利用施設の調整などを行う、「地域スポーツクラブ連合育成事業」を昭和 62 年から取り進めた。

このような我が国におけるスポーツ振興施策が展開される中において、予てより我が国の今後の地域スポーツの発展には、「チームから地域スポーツクラブにしていく必要がある、そのためにはまずはチームを連合させて地域を母体としたスポーツクラブ連合にし、やがては地域スポーツクラブ（後の総合型地域スポーツクラブ）にしてスポーツコミュニティになっていくように」と構想していた同氏は、先述の「地域スポーツクラブ連合事業」の補助事業対象地域となった全国 15 市町の活動状況を、文部省からの科学研究費により 2 年間にわたり追跡調査し、地域スポーツ連合の実態とその形成過程の類型化、形成過程及び育成推進における課題の明確化を行った。

本調査研究において同氏が示唆した地域スポーツ連合育成における手順のマニュアル化や行政担当者の関わり方、スポーツクラブ間同士の有機的な関係構築のあり方、スポーツコミュニティの形成を目的とした組織のあり方などは、その後の地域スポーツクラブ連合育成に対し貴重な示唆を与えるとともに、「地域スポーツクラブ連合事業」をより充実した形として、文部省が平成 7 年から育成を開始した「総合型地域スポーツクラブ」に大きな影響を与えた。そして、総合型地域スポーツクラブの育成は、平成 12 年 9 月に文部省が策定した「スポーツ振興基本計画」の重要施策として位置づけられ、今日まで我が国におけるスポーツ推進施策の一翼を担う施策となっている。

また、同氏は「ホイジンガとカイヨワのプレイ論」の比較研究や、「プレイとスポーツの関連」や「プレイと文化の関連」についての基礎的研究など、プレイ論に基づく我が国スポーツの文化的研究を展開し、その研究成果が、地域における生涯スポーツや生涯

スポーツに結びつく体育の授業のあり方の基盤となっている。

さらに、戦後における体育の学習指導要領の変遷に関する研究を行い、「楽しい体育論」を展開し、実際の指導現場で小・中・高等学校の先生方と一緒に先述のプレイ論に基づくスポーツ文化を学校体育の授業に展開していくための実践的研究にも取り組み、多くの研究論文や著書も出版して学校体育に大きな貢献を果たした。

他方、同氏は日本体育協会の諸事業、とりわけスポーツ少年団関連事業には精力的に携わった。昭和 59 年からは指導者・リーダー養成プロジェクトに参画し、特に、スポーツ少年団の単位団において、指導者とともに積極的に集団の活動を推進していく役割を担う青少年世代リーダーの育成に尽力した。

平成 17 年には、日本スポーツ少年団常任委員に就任し、それを契機に、より一層幅広い活動に携わることとなる。平成 17 年度からスタートした日本スポーツ少年団「第 8 次育成 5 か年計画」に関連しては、スポーツ少年団創設 50 周年を契機として新たなスポーツ少年団の意義を発信するための柱として掲げられた「スポーツ少年団の将来像」を検討するプロジェクトメンバーとなり、少子高齢化、子どもの体力低下が問題視される中、将来のスポーツ少年団のあるべき姿を検討するなど、更なる青少年の健全育成を目指す日本スポーツ少年団の諸施策に多大な貢献をした。

また、日本体育協会生涯スポーツ推進専門委員会委員及び総合型地域スポーツクラブ育成委員会委員長を務め、先述した地域スポーツクラブに関する研究成果から得た知見を存分に発揮し、総合型地域スポーツクラブ育成事業の推進に伴う基本方針の策定及び育成指定クラブの決定等に携わり、総合型地域スポーツクラブの創設・活動支援、都道府県体育協会への助成、クラブ育成アドバイザーの配置といった、総合型地域スポーツクラブ育成の体制整備の構築に尽力した。

その他、日本体育学会代議員、岡山県体育学会会長を務められるなど、学会活動にも精力的に取り組み、我が国の体育・スポーツ研究の発展に貢献した。さらに、公益財団法人岡山県体育協会理事、岡山県スポーツ少年団副本部長、OHK（岡山放送協会）スポーツ振興財団理事、岡山県スポーツ推進審議会会長、岡山市スポーツ推進審議会会長など、各種スポーツ関連団体の要職を歴任し、地域に根ざしたスポーツの普及にも尽力した。